

経営者のための健康管理セミナーを開催

ぐんまみらい(信)

11月14日、高崎市・ホテルグランビュー高崎において、経営者のための健康管理セミナーを開催し、約120名が参加した。講師は、東京疲労・睡眠クリニック院長の梶本修身氏。

梶本氏は、「疲れ」とは活性酸素の蓄積による細胞や組織の錆び付きによるものと説明。特に、疲労は自律神経中枢に影響を与えやすく、その機能は老化により40歳時点で20歳時の半分程度に低下するため、疲労解消の特効薬として質の高い睡眠が重要と説いた。

また、質を高めるには、暗く快適な室温(22～24℃)、十分な酸素供給が望ましいとし、エアコンと換気を併用することが理想的で、質の高い睡眠は仕事の効率も向上させるため、経営者を含め、多忙な人々には特に重要と語った。



「つまみ細工」体験教室で伝統織物「館林紬(つむぎ)」の魅力を発信

館林織物連合(協)

11月22日、館林市・日清製粉ウェルナ三の丸芸術ホールにおいて、館林市の伝統的な織物「館林紬(つむぎ)」を使った「つまみ細工」の体験教室を開催。午前と午後に2回ずつ行い、合計で約40名が参加した。

ブローチ制作に
熱心に取り組む
参加者



会場を彩る「館林
紬」による作品の
数々

参加者は、着物イベント団体「たてばやし和結」の職員によるサポートを受けながら、好みの柄や色を選び、ブローチ制作に取り組んだ。

山岸清理事長は「今回も大勢の来場者に恵まれ



た。今後も他団体と協力しながら館林織物の魅力を発信していきたい」と話している。

イノベーション伴走支援事業委員会を開催

群馬県塗装看板(協)

11月22日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、本会のイノベーション伴走支援事業「組合価値向上型事業」における第1回委員会を開催した。同事業は、組合の魅力や価値を発信するメディア戦略を支援するもの。

同組合は、コロナ禍でのリフォーム需要の高まりを受け、新規参入する事業者が増えたことに加え、原材料の高騰等から厳しい経営状況に置かれている組合員を抱えている。

そこで、当事業でラジオCMを制作し、新規顧客の獲得・受注の拡大を図るとともに、協同組合としての活動を広く地域社会にPRし、新たな加入事業者の増加を目指すもの。

委員会では、ラジオCM制作のスケジュール等について意見交換を行った。今後、CMに盛り込みたいキーワードや放送時間帯等について協議を進め、完成を目指す。



ラジオCM制作について、活発に意見が交わされた

Local Area News

小学校の児童による工場見学を受け入れ

館林金属工業団地(協)

11月27日、同組合近くの小学校に通う5年生約80人による工場見学を受け入れた。児童は複数のグループに分かれ、組合事務所では鈴木郁男理事長が、今年度作成した約15分間の組合PR動画を使って、団地内の全ての事業所の仕事内容を紹介した。さらに、組合員数社が、児童を実際の作業現場に招き、金属切削加工の事業所では、保有設備や道具をどのように使って、製品を製造しているか、絵を使ってわかりやすく説明するとともに、実際に製造した製品も披露した。



イラストを使って説明する組合員

事業承継対策のポイントを学ぶ

西毛機械工業(協)

12月6日、富岡市・富岡公民館において、事業承継に関する研修会を開催した。講師は、群馬県事業承継・引継ぎ支援センターの浦部充弘氏。

浦部氏は、廃業の4分の1は、後継者不在が原因というデータを示し、約半数が親族承継である

一方、第三者へ託す事業承継も一般的な選択になりつつあると説明した。

事業承継では、企業の強みなど、目に見えない知的資産を承継することが1番重要かつ、十分な時間が必要であると述べるとともに、事業承継における過去のトラブル事例も紹介した。

また、同センターの「中立性」、「相談無料」という特長を案内し、明確な課題が表面化していなくても、気軽に相談して欲しいと呼びかけた。



具体例を示しながら説明する浦部氏(右)

今後求められる中小企業経営を助言

高崎測量設計業(協)

12月11日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において研修会を開催した。講師は、コンサルファーム群馬(株)代表取締役・清水邦宏氏。

清水氏は、はじめにGDPをもとに日本の状況を概観。2023年にはドイツに抜かれ4位に転落し、日本の地位は低下していると説明した。

次いで、中小企業が抱える人手不足や資金繰りの悪化といった課題を列挙し、原因が複雑化し、一筋縄では対処できないと述べ、測量設計業界も例外ではないと指摘。続けて、厳しい状況の中で様々な課題の解決策として、ヒト・モノ・カネ・情報といった資源を有効活用した経営戦略の重要性を説いた。

最後に、中国の古典・韓非子に記された「安危は是非に在り、強弱に在らず」*という名言は企業経営にも当てはまると紹介し、講演を締めくくった。



講師の清水氏

* (国家の安全と危険は基準が守られているかにあり、兵力の強弱では決まらない) という意味。